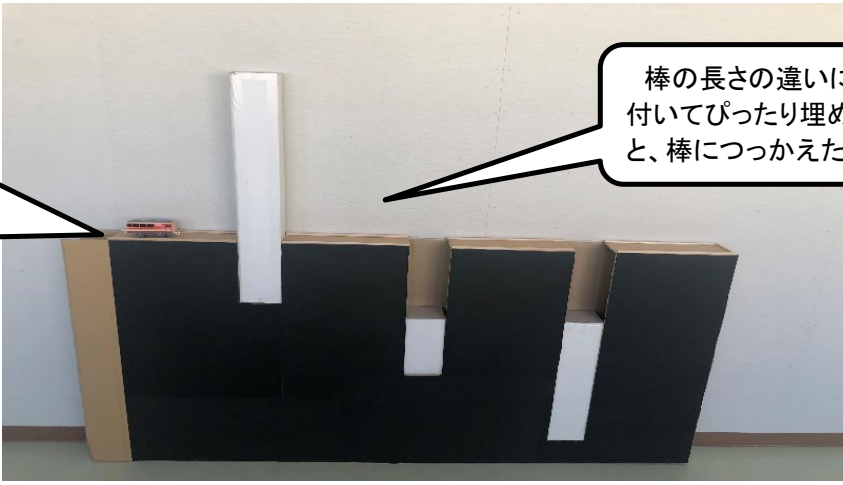
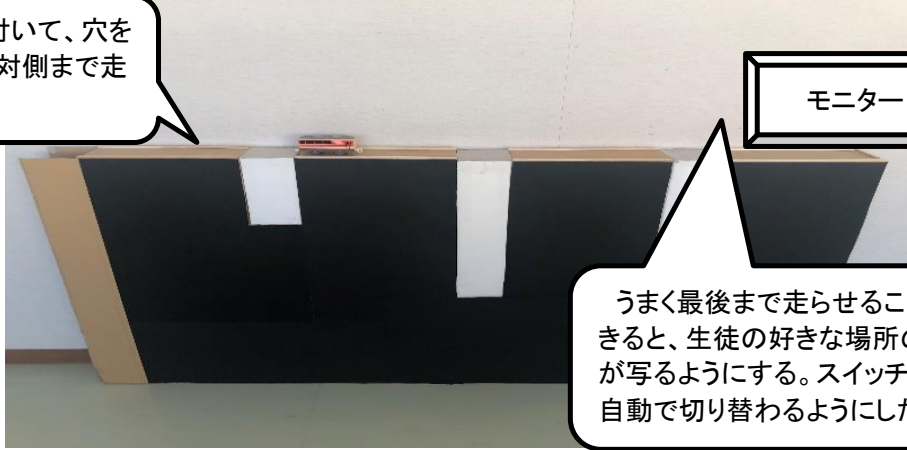


対象 児童・生徒	学部	教科名	教材名
知的障害教育部門 中学部	B部門中学部	小学部1段階 算数	ぴったりうめて はしらせよう



棒の長さの違いに気付いてぴったり埋めない
と、棒につっかえたり、

棒の長さの違いに気付いて、穴を埋めると平らになり、反対側まで走らせられる。



うまく最後まで走らせることができると、生徒の好きな場所の写真が写るようにする。スイッチとかで自動で切り替わるようにしたい。

ねらい
 ○大きさや長さ等を基準に対して同じか違うかによって判断する。
 ○ある・ない、大きい・小さい、多い・少ない、などの用語に注目して表現する。
 ○大小や多少等で区別することに興味をもち、量の大きさを表す用語に注目して表現する。

材料と作成方法
 ○材料
 板段ボール2枚、動く鉄道模型
 ○作成方法
 板段ボール2枚を頑張って箱状にして棒が入るようにくり抜く。くり抜いた形に合う四角柱を作る。
 ○幅1800mm、高800mm、奥100mm

配慮事項
 最初は棒がぴったり埋まった状態で、反対側まで電車を走らせることを繰り返すことで、「電車が反対まで走ると自分の知っている場所の写真が写ること」を意識付ける。
 『さんすう☆』P80の挿絵を参考に作成しました。詳細は同解説P81を参照。

プログラミング的思考を育む観点
 知的障害の状態が重度である子供の指導においては、「何が正解であるか分かるようにすること」、「正解したことによって本人にとって面白いことが起こること」、「その因果関係が分かること」がまず重要だと思います。そうした観点がこの教材にはあるのではと思っています。